（別紙4）　　平成　30　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4372900755		
法人名	特定非営利活動法人　八竜会		
事業所名	グループホームまどかⅡ		
所在地	熊本県八代市坂本町西部い2920－1		
自己評価作成日	平成30年10月29日	評価結果市町村報告日	平成30年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	平成30年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者の意見を尊重し、出来るだけ自宅で過ごされるのに近い生活を送って頂けるように起床、就寝時間等柔軟な対応を心がけている。食事の時にはテーブル拭きや箸を並べてもらったり、簡単な料理やおやつを一緒に作り、後片づけもお願いしている。音楽に合わせてのラジオ体操や地元の踊りや歌を唄ったり、季節の行事、フラダンスチーム等ボランティアの方々からはまどかで是非踊りたいとの要望が毎年あり、家族様や地域の方々にも参加してもらい交流を深めている。野菜の栽培は利用者と一緒に近くの畑まで行き種まきや草むしり、最後は汗を流しながらの収穫で達成感を味わってもらっている。そして収穫した野菜は近所の方々にもお配りしホーム内でも調理し、収穫までの思い出話をしながら美味しく頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設以来力を入れてきた地域との関係も成果が表れ、今では事業所菜園で収穫した野菜を近隣に配る等の楽しみも恒例化している。隣接する法人グループホームとの往来も御近所付き合いのようで、庭での花見や敬老会等のイベントを楽しみ、日々の生活の様子を収めた写真は毎月家族へ送る手紙と共に喜ばれている。今年は組織体系が変わったことから職員の勤務体制にも変化があり、職員も話し合いを重ねケアにあたっている様子が窺えた。入居者の身体状況や高齢化等から気軽なドライブや外出の機会が減って来た様であるが、今年の事業所目標を「戸外での活動を増やす」と決め、散歩や外気を感じる機会作りに取り組んでいる。管理者は日々その時々において入居者の「笑顔」を大切にしており、事業所内は笑顔と笑い声があふれている日頃の様子があった。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をホーム内3か所に掲示し、朝夕の申し送り時に全員で唱和し意識を高めている。また毎月の会議には、理念を踏まえた支援の振り返りを行っている	事業所の理念は職員・入居者・来訪者誰もが見ることのできる場所に掲示され、職員は申送り時に唱和している。入居者の「笑顔」「喜怒哀楽」とその時々の気持ちを大切にし、傾聴・共感を大切にしたケアは職員で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の清掃活動や廃品回収に参加したり、隣の神社の旗立てや旗降ろしなど祭りの手伝いもしている。また収穫した野菜や花を差し上げたり、頂いたりしている	従来から地域のつながりに力を入れており、地域との毎月の情報会には法人から1名が参加し情報交換を得ている。地域公民館での敬老会には継続して入居者を連れて行っており、大切な行事と位置付けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回の地区の常会や推進会議時に認知症についての話や支援のあり方を質問があれば説明している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の都度、現在の利用者の状況、サービスの状況を報告し要望を聞いたり提案したりしている。踊りやそば打ちのボランティアの方を招いて利用者と家族が共に過ごす時間を作っている	地域住民や知見を有する方等、様々な立場からの参加が見られる会議では、事業所の取組みについて意見交換や入居者との交流も図られる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点があれば連絡し指示を頂いている。運営推進会議に市役所の職員に出席をお願いしている	地域では年1回全事業所管理者の会議があり、他事業所との交流の場ともされている。行政主催のグループホーム職員に向けた研修も開催される。今年度は身体拘束適正化に向けての研修参加や指針作成相談等、話し合いを重ね作り上げた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開放、但し防犯上18時～朝8時30分は施錠している。身体拘束については事業所内外の研修に参加し全職員が理解したうえでケアに努めている。ホールに身体拘束三原則を掲示し啓発に努めている	第三者も入り構成する身体拘束適正化検討委員会で事業所での状況を話し合う機会を持つ。全職員で拘束防止委員会を構成し、ケースによって職員全体で話す機会を作っている。日頃の業務で気になる際には互いに声を掛け合い、振り返る機会を持っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所外の研修に多く参加して学ぶ機会を持つようにしている。また事業所内では3か月に1回身体拘束適正化委員会を開催しケアの振り返りを行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	G.・H地区部会の研修等に参加したしている。引継ぎ時に伝達講習を行い、参加者は研修レポートを作成し理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時は勿論、運営推進会議や面会時に説明したり、書面にして郵送したりして、理解し納得頂いている。見学者に対しても重要事項説明書で説明することもある		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時にご家族に声掛けし意見を伺っている。それらを記録に残し、伝達し職員間でも話し合っている	家族の訪問時には必ず職員から声を掛け、意見を出しやすい環境を作っている。遠方の入居者家族も運営推進委員会への参加が年数回見られ、入居者の日頃の様子を伝えたり意見を頂く機会としている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時ホーム長に報告している。法人理事長も月１回のスタッフ会議に参加し、利用者に対してのサービスの向上や仕事の内容について話し合っている	毎月の職員会議において業務・運営に関する意見を述べる時間を作っている。管理者は日頃から職員のストレスケアの必要性を感じており、職員の意見を直接聞くことに努めている。随時ホーム長への報告行い、働く質の向上に向けての職員の思いに対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や職務に対する意欲、研修への参加意欲等を昇給・賞与反映する人事考課を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得希望者には、勤務調整をしたり、相談に応じている。地域のGH連絡会主催の研修には、より多くのスタッフが参加できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月１回のG.・H連絡会の研修や懇親会、またそれ以外の研修に参加し情報交換をしている		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話を傾聴し不安を取り除くように努めている。入居当初は特に関わる時間を設け職員間の連絡を密にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前はもちろん入居後も御家族の話を聞き、折に触れ利用者の情報を報告したり、関係づくりに努めている。管理者を窓口にして深く関わっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に必ずスタッフに情報を提供し、ご家族や本人が必要としている事を入居後すぐに実行出来るようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の能力に合わせて掃除や洗濯物干し、たたみ、テーブル拭きや配膳、また料理やおやつを職員と一緒に作ったり、野菜の栽培から収穫までをスタッフと一緒に楽しんでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際に日常生活の出来事を話し、助言を頂いたり、折に触れご家族からその人の入居前の生活暦や病歴を聞くようにしている。発熱など体調変化があった時は電話で報告することもある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会が出来るようにしている。お盆や正月は家族に出来るかぎり帰宅を勧めているが、家族の要望もあり、現状は難しいところである。住み慣れた地元には出かけ、関係が途切れないように支援している。	家族との関係を大切にしており、難しい状況ではあるが、機会を作り外出や外食への依頼を継続している。入居者が馴れ親しんでいる地域の花火大会には全入居者が車で見学に行く等、生活の楽しみの継続も試みながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで歌を歌ったり、ゲームをしたり音楽に合わせてラジオ体操や踊りを踊ったりしている。利用者同士の関係をみて、席の移動もしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方にも転居先の施設に面会に行ったり、またそのご家族とも継続的な付き合いが出来るようにしている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の何気ない言葉にも注意を払ったり、要望を聞いて献立を決めたり、行事を計画したり、本人の意向の把握に努め、希望に添うようにしている	毎日の生活は職員と共にゆったりと落ち着いた環境で営まれており、隣に座ってしっかりと向き合い、寄り添い・共感の中で思いや意向を把握している。家族とも相談し、入居者の要望に沿ったケアを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からはもちろん、それまで利用されていた施設や病院等からの情報収集に努め、入居後も折に触れ本人やご家族に趣味や嗜好品、生活歴を聞くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し利用者一人ひとりの生活リズムを現状把握し、必要に応じて支援の方法を会議や申し送り時に話し合い都度変更している		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族との日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。会議や申し送りの時にこまめにモニタリングを行い現状に即した支援を行っている	日頃からの職員の関わりでの意見を元に毎月モニタリングを行い、半年毎に評価・見直しを行っている。日頃の状況から変化が生じた場合は都度話し合いを行い、現状に即した介護計画となるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子を個別記録に記入し、朝夕の申し送りで報告し情報を共有している。その情報を必要に応じて話し合い、ケアや介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランにとらわれずその日の天候やその時の利用者の気分や体調に応じた柔軟な支援を心がけている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事がある時は近所に声かけしている。毎年ボランティアの方々からの要望による踊りや敬老会の催し、また地元のふるさと祭りには毎年出かけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的には、家族に同行を依頼しているが、家族の希望によっては職員が同行したり、往診をお願いしたりしている。必要に応じて主治医に連絡して指示を受けている	入居前からのかかりつけ医を継続して受診できるよう支援している。殆どの入居者は協力医からの往診を利用しているが、専門医等通院の場合は家族による介助を基本とし、必要に応じて職員介助も行う。今年から、退院後や食事量の変化で心配がある際に訪問看護を個別で利用できる様になった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態や必要に応じて看護師に連絡、相談し場合によっては受診したり、医師に連絡している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、情報を提供するとともに面会行った際には主治医や看護師から情報を得るようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化になった場合、家族や医師、スタッフと話し合うようにしている。重度化になった利用者の担当医師と連絡を密にしホームで出来る限りの支援を行っている。転居の場合、他施設と情報交換している	実際にその時を迎えた時は、入居者・家族の意向を第一として関係機関との連携をとり、最善な対処となる様取り組む。訪問看護の利用も始まったことから、職員へも医療面・重度化・終末期ケアについての研修が必要と検討しているところである。	看取りの経験より、ホームが自宅であり入居者と職員が一つの家族である様子が窺えました。これからも入居者・家族、職員の意思疎通の共有に心配りのあるホームであり続けて欲しいと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内外の研修（消防署によるADの講習含む）にも参加し、全職員が対応できるように努めている。緊急時は職員連絡網に沿って連絡し夜間の急変時は先ず管理者に連絡し指示受けの対応を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者講習に参加し資格取得している。年2回の避難訓練を利用者と共に行っている。緊急連絡網を作り職員に配布している。市政協力員の協力も仰いでいる	年2回の防災訓練を行っており、夜間想定やAED使用については消防署の指導も受けている。運営推進会議では地域への協力も依頼しており、自然災害での協力体制等も話し合いを重ねている。	事業所での防災訓練へは地域への協力呼びかけを行い、地域の消防訓練にはお誘いを受ける等、地域との連携、良好な協力関係の様子が窺えました。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性に合わせて声かけや対応を工夫し、誇りやプライバシーを損ねないように注意し会議等で話し合っている。不適切な言葉かけや対応が見られないように職員間で注意し合い啓発に努めている	方言等もあり、入居者と職員の「慣れ」による言葉遣いには特に配慮しており、ホーム長・管理者からの気付きを職員に伝えている。運営推進会議等、外部の目に触れる入居者情報等には入居者名をアルファベットで記載する等、書類関係にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、利用者の希望を引き出すようにしたり、自己決定が出来るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、利用者の状態に合わせて柔軟に対応している。スタッフの都合に合わせた対応にならないように、会議や申し送りに話し合っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えや洗面所でブラッシングされる方もおられる、また入浴の着替えの準備も少なくなってきましたが、、出来る方は自身で、それ以外の方はスタッフと一緒に衣服を選んでもらったりこちらで用意している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のリクエストで献立を決めたり、旬の食材や行事食を提供し季節感を出している。簡単な料理、後片付けを手伝ってもらっている。職員も同じ物を一緒に食べている	毎日入居者のリクエストを確認しながら職員が手作りの食事は入居者に喜ばれている。皆で「いただきます」の挨拶で始まる食事時間には職員と入居者が共に食卓を囲み、賑やかな触れ合いの時間となっている。	食事作りから後片付けまでできる範囲で入居者の関わりが見られ、食事後には自然と入居者の歌う姿が見られたりと、食事全体が一日の楽しい時間である様子が窺えました。これからも食事を大切にする考えを継続して頂きたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、おやつ、飲水量を毎日記録。月1回体重を計り職員が情報を共有また献立表を作成し、栄養面でバランスのとれた食事を提供するよう心掛けている。飲水量が少ない方には好みに応じた飲料を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行い、本人の能力に応じて見守りや介助を行っている。就寝前に義歯を預かり、夜間洗浄している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し、尿・便意のない利用者には時間を見計らって誘導することによりトイレで排泄出来るようにしている。就寝後も声かけトイレ誘導している人もいる	排泄チェックシートでのパターン把握とともに声掛け等でできるだけ昼夜共にトイレでの排泄に向け支援している。職員は入居者のしぐさや合図を共有しており、また夜間の声掛けもそれぞれに合った時間を見極め行う等、個別対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用い排泄パターンを把握し食物繊維の多い食事や乳製品で対応し、水分を多めに取られるよう声掛けしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否の強い方には声かけの工夫や時間、曜日をずらしたりと柔軟に対応し、気持ちよく入浴して頂けるように配慮している。浴槽に入るのが難しい人には足浴をしながらシャワー対応をしている	入浴は入居者の予定や体調も考慮し、週3回程度の支援を行っている。汚染があった時には入浴時間に関わらず都度対応し清潔を保持している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整え夜間良眠出来るように支援し、不眠の方には家族、医師と相談し安眠出来るように支援している。エアコンにて室温管理を行い冬は湯たんぽを使用している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作り情報を全員が共有している。処方箋の変更があった場合は副作用や利用者の様子を記録に残し、状態によっては医師や家族に連絡、相談ししている。禁忌食は冷蔵庫に掲示している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみ、掃除やテーブル拭き、後かたづけ等個々にに出来ることをお願いしている。　ドライブや外気浴、散歩など外出の機会を作っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や本人の希望に応じて日常的に散歩やドライブに出かけたりしている。お正月は隣の古田神社に参拝に出かけたり、地元の祭りや花火を見に行ったりしている	隣接する神社参りや近隣に位置する菜園までの散歩等、外出する機会を作っている。地元で親しまれている花火大会には入居者と車で会場近くまで出向き喜ばれた。家族へ協力を依頼し、外出や外食等を楽しむ機会もある。計画での外出時はボランティアの協力も得ている。	以前より日常的な買い物への同行等、その日の希望による外出の機会が減ってきたことを課題ととらえている様子が窺えました。その時々入居者の体調等もあるでしょうが、「今出来ること」を大切にした支援に期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、紛失等もあるのでご家族に説明し、現状では本人による所持及びホームでの預かりはなし。何か欲しい物がある時は、家族同伴による外出や病院受診時に買い物をされる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば職員が取り次いでいる。手紙は本人に手渡し見て頂いたりこちらで代読している。今年度は職員と一緒に誕生月にメッセージカードを作り家族に今の思いを書いて送り思いの共有を図りました		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、夏は七夕飾りや冬はクリスマスツリーの貼り絵を皆で作ったりして季節感を出している。美味しそうな料理の匂いや包丁の音がしたり、音楽をかけて五感を刺激するよう努めている	食事をとる大きなテーブルでは入居者がおやつ作りや季節の飾り作りを楽しんだり、台所での食事作りを感じることができる。人によっては、時には般若心行等の写経をする方もあり今までの生活の延長が見られる場所になっている。ソファーに座り、テレビや庭の様子を楽しみ、ゆったりと過ごすなどそれぞれの入居者の姿がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、ソファー、玄関先のベンチなど一人ひとりが好きな場所で過ごし、テレビを見たり利用者同士話をしたり出来るようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的にはベットやタンスは施設の備え付けを使用しているが、寝具や目覚まし時計など使い慣れた物や写真や人形など愛着のある物を持ってきて頂き居心地よく過ごせるように支援している	「グループホームは我が家である」の事業所の考えのもと、入居前から使用されていた生活用品の持ち込みを家族に依頼している。家具は安全に配慮した配置がされている。部屋毎に職員の担当があり、掃除も行き届いて心地よい空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の両脇には手すりを設置し、トイレ、浴室の必要な部分には安全を考慮して設置している。歩行が不安定な方には杖を使用してもらっている。車椅子介助での移動の方もおられる		

２　目標達成計画

グループホームまどかⅡ
作成日　平成３０年１２月２１日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	40	利用者のリクエストを聞きながらメニューを立てているが振り返りがないためメニュに片寄りがある（時に同じ物が続く）	利用者の好みに応じたメニューを片寄りなくバランス良く提供する	月１回のスタッフ会議で職員全体で実施献立表を見ながらメニューの振り返りを行い、バランスの良い食事を提供する	１２か月
2	49	外出する機会や行事への参加が少なく利用者の間で閉塞感が観られる	戸外での活動や行事を増やす	ボランティアの方々の協力も得ながら車椅子使用の利用者も含め外出や行事への参加の機会を作る	１２か月
3					
4					
5					

注１）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注２）項目数が足りない場合は、行を追加すること。